

船橋市社会科セミナー通信 第143号

8.30土報告

勉強会会場はいつもの「プラウドタワー船橋」。

今回の出席者は、皆川征夫先生と会場担当で事務局長の大野肇先生(行徳高校)と山本翔太(習志野台中)・



座間祐希(習志野台中)・皆川高士(船橋中)・佐藤一巳(前原小)・豊田裕美(大穴小)・山口隆(葛飾中)・小倉隆志(浦安市教委)・冨澤真也(大穴中)・田中基紀(法典小)・石原智広(七林中)・武井剛(古和釜小)・中谷佳子(飯山満小)・大久保徹(南本町小)・渡邊剛の各先生と会長の池田(八木が谷中と宮本中で初任者指導)の合計17名。今回は、山本翔太(習志野台中)・座間祐希(習志野台中)・皆川高士(船橋中)先生が初参加してくれました。おかげさまで今回は目標の10名に達することができました。

皆川征夫名誉会長の講演

文責：池田義光

はじめに

1. 私は今、裁判所の調停委員をやっている。調停に持ち込まれる事案として最近は「いじめ」の問題が多い。例えば、こんな事案があった。小学校6年生の清掃に関して、A班長が班員Bの清掃態度が悪いと反省文を書かせた。そんなことが何回かあった。Bはそのことが嫌で学校を休むようになり、長欠になった。→そこでBとその保護者がAとその保護者に対して、これをいじめであるとして損害賠償の請求を調停に持ち込んだ。

法的な争いの半分以上は裁判でなく、調停にかけられる。社会科でもっと調停のことを教えるべきだと思う。

2. 私が教育委員をやっていると思うことは、教師は社会的に見て実によく働くということ。働き過ぎとも言える。特に中学校は部活動と生徒指導に忙しい。しかし、部活動はやり過ぎではないかと思うことが多い。教師は授業が最も大切である。もっと授業準備や教材研究を大切にしてほしい。生徒に本当に「生きる力」や「考える力」をつけるにはどうすればいいかを考えてほしい。

[I] 歴史的思考力を高めるためには、教材研究が極めて大切

1. 教材研究は教師の生命

教師はその時代がどのような時代であったのか、まずそれを追究し明らかにしていく教材研究の

必要がある。

授業は教材研究の成果にたつて、深く社会を考えさせるような授業にしたい。ワークシートを使って教科書の内容をまとめるだけの授業をよく見るが、それでは思考力は育たない。

2. 単元観は教材研究の成果

単元観には、その単元の価値・有用性・必要性を明確にして記述するべきである。

3. 教材研究の具体的事例：「明治維新」を教材研究する場合の視点

(1)「明治維新」を日本史における三大革命の一つとして位置付ける（大化の改新、武家政治の成立、明治維新）

(2)大変革は、異常な社会や考えの中で進行する、という視点を大事にする

(3)薩長連合は本当に「官軍」と言えるのか

薩長側は「錦の御旗」を押し立てて「官軍」であることをアピールしたが、「錦の御旗」を押し立てることには天皇の認可がないままに勝手にやったのである。

歴史は勝った者がつくる、という見方をすべき。（勝てば官軍）

(4)会津戊辰戦争は必要だったのか。会津はなぜ簡単に敗北したのか

船橋の御滝中は長年修学旅行先は会津であった。会津に行って白虎隊の敗走コースを実際に歩いたりした。

会津戊辰戦争をわざわざやらなくても、既に、鳥羽伏見の戦いや江戸無血開城で、決着が着いている。

会津が薩長の目の敵になったのは、会津藩主松平容保が京都守護職になったからだが、容保は京都守護職になりたくてなったわけではない。それどころか家老らは強く反対したのだ。

会津が簡単に敗北した理由の一因は、会津戊辰戦争の時に農民が会津藩に味方しなかったことがある。

(5)農民の困窮化はなぜか。

藩財政は1年間で67000両も不足

(6)会津戊辰戦争の後の、会津藩の移封は何をもたらしたか

未だに会津の人は長州を恨んでいる。その原因は、①下北半島への移封は流刑のようなものだった。②戦いに勝った後、死者を葬らないなど、征服の仕方があまりにも残酷だった。

(7)徳川慶喜は、日本の国王か

徳川将軍家は大名連合の長であり、中央集権国家の長(国王)ではない。

(8)薩長側は幕府を倒した後の政治の在り方をどう考えていたのか

藩主は、藩士（西郷・大久保・木戸ら）に任せていて、倒した後のことは知らない。

西郷らも倒すのが目標で、その後のことまで考えていたとは言い難い

倒した後のことを考えていたのはごく一部の者。

幕府側にも、新しい政治の在り方を考えていた者がいる（小栗上野介、津田出らは、倒幕派が考えた新しい政治をすでに考えていた）

(9)長州藩はなぜ積極的に倒幕運動を進めたのか

遠因は1600年の関ヶ原の戦い。毛利家はこのとき大幅に減封され藩士の生活は困窮し徳川氏に強い反感をもっていた。そのために幕末には容易に倒幕論になった。

薩摩藩は琉球支配により富を得て、雄藩になっていた。

土佐藩は元もとの長宗我部氏の家臣団が下級武士(郷士)となり、支配者である山内家家臣団が上級武士(上士)として入り込み、二重構造になっていた。

(10)廃藩置県の意義は？

廃藩置県は明治維新という革命の関心的な出来事である。

約270の大名による支配が一夜にして消滅した。

武士はこれでこれまでの支配者としての職を失った。

北総台地の開発(初富・二和・三咲など)には職を失った士族の授産の目的があった。

国民には、欧米列強の侵略への危機意識があり、今の体制を変え新しい体制づくりへの期待があったので、廃藩置県に対して大きな抵抗がなかったのではないか

(11)江戸時代から明治時代にかけて、学問が盛んなわけはなぜか

(12)明治維新前の幕政改革は？

小栗上野介、津田出(紀州藩の開明的な藩政改革を実施)らは、倒幕派が考えた新しい政治をすでに考えていた

(13)西郷・大久保・木戸らの指導者は、明治維新後のことをどう考えていたか

(14)岩倉使節団の歴史的意義は？

大久保・木戸を初め明治維新の100名以上の指導者が1年以上かけて、政府を留守にし、欧米視察に出かけていた。

残ったのは西郷隆盛や江藤新平・板垣退助らのみ

西郷は倒幕に命を懸けたが、その後の日本をどうするかは見えていない

こういう視点で教材研究をしてから教科書を見直してほしい。

授業は追究型で考えさせる授業をしてほしい。

[Ⅱ]公民分野における権利と義務について

1. 権利意識と義務意識

今の社会は、権利ばかり主張して、義務や責任の意識が薄いということを踏まえて、両者を教えるべき。

2. 権利と義務の教え方

権利と義務をバラバラに教えるのではなく、権利と義務を一体として教えるべき。

政治では、権利を実現するためにはお金がかかる。例えば、教育を受ける権利を保障するには学校や施設・設備や教具や教師などが必要。これにはお金がかかる。だから税金が必要で、納税の義務がある。権利をより重視し、福祉を充実させようとするとお金がたくさんかかる。そうすると税を増やす必要がある。高福祉高負担か、低福祉低負担かを選ぶ必要がある。例えば消費税問題も、消費税を10%にしないと将来は今の福祉レベルを維持できなくなると言われる。

[Ⅲ]キャリア教育について

「学びからの逃走」

子どもも消費社会の客である。学校での学びに対しても客の意識を持っているので、自分にとって授業の良し悪しで学びを選択。まずい授業は学ぶ必要がない。学びたくない授業は学ぶ必要がない。つらい学びは必要ないと考える。

「働くことからの逃走」

無理に働く必要がない。つらい労働は必要ない。ニートは悪いことではないという意識。

1. 過去になった日本人の勤勉さ

(1)1853年のアメリカ海軍提督のペリー

「日本の手工業者たちは、世界のどこの国の手工業者にも劣らず熟練している。日本が世界と交流するようになれば日本は世界の強力な競争相手として登場するであろう」

(2)親日家として知られるチャプリンは、日本を「世界一、努力を惜しまない国」と評した。

(3)今や「努力は無駄」「やたらに競争させてはいけない」という風潮があるが、勉強は死にもものぐるいでやらなければだめだと思う。ただし勉強の目的をまちがえてはだめ。東大に受かるためでは

ない。勉強は人格を形成するためにする。

2. フリーターやニートの激増する今日

ニート100万人時代に突入。正社員にならないかと声を掛けたら、自由がいいのでと拒否したものがいた。

3. ニートを生み出す社会

(1) 「個性重視の教育」「自分らしい生き方」がニートを生む

「自己の個性」と「自分らしい生き方」を主張して社会の常識的な生き方（労働の中に生き甲斐を求める生き方）を避ける。

(2) 「自分のことは自分で決める」がニートを生む

「自分のことは自分で決めたらなら、すべてよい」という自己決定バラ色論では、結果が自己に不利益でも自分の責任であるとする。一見正しいように見える。これはニートも自己責任とする。しかしそれはただしいのか。

例えば進路選択の時に、生徒に自己決定させるには、専門家である教師が十分な情報を与えかつ導かねばならない。インフォームド・コンセントも医者 of 専門的な知識がないものに決められるはずがない。安易に自己判断させればいいのではなく、十分な情報と自己判断できる能力を育てる必要がある。

4. 「自己の利益のみを追求する人間」から「他者の利益も追求する人間」の育成へ

自分だけが幸せであればよいのではなく、他者の幸せを願う人間の育成。

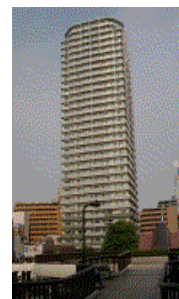
「自己利益追求人間」からの脱却を！社会で役立つ人間の育成を！

9月セミナー予定 9月21日(土)

<勉強会>は、プラウドタワー船橋1階入口 **3時集合**

1. 知っ得ニュース (池田)
2. 生徒指導について (池田)
3. 発表内容募集中

※終了後 船橋駅周辺で **6:30頃**から**<懇親会>**



プラウドタワー(船橋駅北口)

⇒出欠席をできれば **2週間前までに池田宛てにお知らせください**